

積水ハウス株式会社

2025 年度 ESG 経営説明会

質疑応答要旨

開催日時 : 2025 年 10 月 8 日 (水) 16:00~17:05

説明者 : 執行役員 ESG 経営推進本部長 山田 実和

業務役員 環境推進部長 兼 環境マネジメント室長
(環境事業部会長) 井阪 由紀

執行役員 経営戦略本部長 (前 人財開発部長)
(前 社会性向上部会長) 安信 秀昭

執行役員 コーポレート管理部長
(ガバナンス部会長) 河村 直樹

業務役員 IR 部長 川畠 弘幸

＜質疑応答要旨＞

質問

- LCA (ライフサイクルアセスメント) 手法により、生産から解体までの CO₂ 排出量を算出されているが、サーキュラーエコノミーの CO₂ 削減効果を算出し、気候変動緩和と資源循環を同時実現していることを可視化していくことは可能か。

回答

- 脱炭素と資源循環の実現を表現するという点において、社会からも求められている重要なポイントのため、ぜひ対応したいと考えている。しかしながら、現在、建築物におけるサーキュラーエコノミーの CO₂ 削減効果の算出方法がまだ確立されていない。算出方法については、国の主導で検討が進められており、当社も委員会に参加し、議論に加わっている。国の動きを見ながら連動して対応していきたい。

質問

- ネイチャーポジティブに向け 5 本の樹を長年取り組んでいるが、CO₂ 吸収量による 2050 年の Net Zero への貢献を示していくことは可能か。
- また、森林の CO₂ 吸収量増加をクレジットとして販売するなど、財務価値化していく予定はあるか。

回答

- 当社は現在森林を保有していないため、クレジット販売はできない。ネイチャーポジティブに資する庭木

の CO2 吸収量については、原単位がまだ整備されておらず、定量化が難しい領域。5 本の樹については、ネイチャーポジティブやウェルビーニングの効果において、お客様への影響を訴求していきたい。

質問

- ・ 人財価値の向上に向けて、「多様化が進む従業員に自律を促し、同時にベクトルを一致させる」ことは二律背反を追求しているように見える。運営面でどのような工夫・整理がされているか。
- ・ また、海外拠点でもこの取り組みは行われているのか。

回答

- ・ 自律とベクトルは対立概念ではなく、両輪であり、相乗効果を生む要素として位置付けている。自律とは、従業員一人ひとりが自分の意志と責任で行動できる状態。ベクトルの一致とは、従業員が会社の大きな方向性を理解し、その実現のために力を合わせている状態。自律は遠心力にあたり、ベクトルの一致は求心力にあたる。自律だけでは個人の成長はあるかもしれないが、バラバラになって組織としての力にならず、ベクトルの一致だけでは画一的で創造性が失われることになりかねない。人財価値を向上させていくためには、従業員の自律とベクトルの一致のどちらも推進していくことが重要だと考えている。
- ・ また、海外においては労働市場の在り方が異なるため、日本より自律した従業員が多いと考えている。だからこそ、企業理念と事業戦略をしっかりと浸透させていくリーダーの育成、海外人財を含めたリーダーパイプラインの構築、こうしたベクトルの一致が重要だと考えており、しっかりと取り組んでいきたい。

以上